議会だより さつま



令和８年
87
11月５日発行

踊りきった満足感！！

～地域の伝統と笑顔を未来へ～

補正予算の概要


農林水産施設災害復旧事業
災害復旧工事（98件）など
2億8,060万円


防災拠点事業
防災倉庫建設予定地
（アクシーズアリーナ宮之城駐車場）
防災倉庫建設工事など
1,856万円


単独道路整備事業
舗装工事
白男川高峯線ほか
2億3,000万円


水道料金負担軽減事業
基本料金の２か月分の軽減
1,951万円


道路河川愛護作業補助金
300万円


河川改修工事
豊田方川　ほか
2,000万円


テニスコート照明 LED 化工事
アクシーズフィールド宮之城
テニスコート
4,000万円


薩摩農村環境改善センター
給水管布設替工事
駐車場内の給水管の漏水
250万円

議長通信

改選後、少しずつですが、議会改革に取り組んできました。今回の定例会では、決算審査の開催方法や議会だよりなどを大幅に改革しました。今後の議会にもご注目ください。



議長
新改　秀作

９月定例会

第３回定例会は、９月１日から９月25日までの25日間の会期で行われ、条例の一部改正、補正予算、決算、契約の締結などを審議し、提案された全ての議案を可決しました。

日直：ふるた・たけ

主な審議議案

条例	
町地域型保育事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正 満３歳以上の限定小規模保育事業が、全市町村で実施可能に	可決
補正予算	
令和８年度一般会計補正予算（第４号）　※専決処分の承認 ６月２４日からの豪雨による災害復旧経費	承認
令和８年度一般会計補正予算（第５号）	可決
令和８年度一般会計補正予算（第６号） 令和８年熊本地震で被害を受けた施設の修繕など	可決
令和８年度後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）	可決
令和８年度介護保険事業特別会計補正予算（第１号）	可決
令和８年度上水道事業会計補正予算（第２号）	可決
決算	
令和７年度歳入歳出決算の認定について	認定
令和７年度上水道事業会計決算の認定について	認定
令和７年度農業集落排水事業会計決算の認定について	認定
その他	
財産の取得　学校給食センター小型ガスフライヤー	可決
財産の取得　道路維持作業車（小型２ｔ自家用貨物）	可決
人権擁護委員候補者の推薦　四位　真由美　氏	適任

一般質問

一般質問とは ……

町の行財政全般について、町の考え方や疑問をただし、疑問を解消するだけでなく、政策提言を行います。

岸良 光廣

1 行政改革について

古田 昌也

1 障がい者、高齢者支援の課題について
2 コンサルティングの在り方について
3 自衛隊誘致に関する要望活動等について

有川 美子

1 薩摩農産物加工センターの今後について
2 今後の男女共同参画施策について

武 さとみ

1 住民の安心・安全と平和な暮らしを守ることについて
2 地域の活性化について
3 物価高対策について
4 学校でのタブレット活用について

川口 憲男

1 さつま町が目指すまちづくりについて

竪山 秀樹

1 令和８年産米の価格下落に対する生産者支援策について
2 本町の農業政策における現状と課題について
3 豊富な水資源を活用した小規模水力発電の可能性と地域の未来について

徳留 和樹

1 農業を支える体制について
2 観光や交流人口増に向けた取り組みについて

上別府 ユキ

1 災害時における避難所のトイレ環境について

一般質問１日目の動画配信

- 岸良 光廣
- 古田 昌也
- 有川 美子
- 武 さとみ
- 川口 憲男

一般質問２日目の動画配信

- 竪山 秀樹
- 徳留 和樹
- 上別府 ユキ

一般質問の記事は、各議員から提出された原稿を基に、質問議員の責任において掲載しています。

空き家活用で若者の移住を

町長／定住を進めるひとつの方法



岸良 光廣 議員

問 計画では、令和17年に人口を1万5千人以上維持するとしている。町のアパート建設補助は一定の成果があったが、アパート住民はいずれ出ていく。移住を促すなら空き家対策が一番よい。町外から移住する若者世代に、中古住宅の購入補助金に加えてリフォーム分の加算金を350万程度出す考えはないか。

答 移住定住や子育て支援は、他の自治体といかに差別化を図るかを検討している。空き家を活用することが定住を進めていくひとつの方法であるとしっかり認識している。議員の提言についても検討していく。

要請 補助金申請時、手続きが複雑すぎると聞く。申請しやすいように手続きの簡略化を強く要請する。

加算の種類	加算要件	加算額
空き家リフォーム加算	50万円以上のリフォーム費用（補助率：費用の20%以内）	上限100万円

【現状】転入者が空き家を購入し、リフォームした場合の加算金

親亡き後の支援体制は

町長／伴走型支援に努める



古田 昌也 議員

問 障がいのある方の親亡き後を見据え、住まいや生活支援、相談支援など、将来に向けた体制をどのように整えていくのか。また、親が元気なうちから子どもの将来を一緒に考えていく伴走型支援は考えられないか。

答 令和9年4月のサービス開始に向けて地域生活支援拠点を整備し、相談支援体制を一層充実させたい。また、社会福祉協議会や民生委員・児童委員、ケアマネジャーなどの関係機関と連携を密にし、相談者に寄り添う伴走型支援に努めていく。

要請 障がいのある子どもがいる家庭は、大半が親亡き将来への不安を抱えている。元気なうちに意見を聞き取り、よりよい制度設計をめざしてほしい。



さつまる・ふくしマルシェ

町指定管理施設の問題解決を

町長／改善・検討していく



有川 美子 議員

問 薩摩農産物加工センターの管理不良と雨漏り問題は深刻だ。(1) 今年、雨漏り10か所程にバケツを置いて対処。町は、施設を善良な状態で指定管理をお願いするべきでは。屋根補修工事の調査をしないのか。(2)次年度からの個別施設計画では、譲渡の対象か。

答 (1)管理不良については指導・研修・清掃を実施。屋根補修工事は、令和４年度時点で概算見積額1,500万円だった。今後の調査は計画予定。(2)譲渡の方向性。

要請 製麹機は買い替えると500万円以上。利用者数・費用対効果等を考慮し、現在、お困りの利用者が、鶴田農産物加工センターにて味噌づくりができるように要請する。



薩摩農産物加工センター

防衛費より防災費増額を

町長／町村会等を通じ要望する

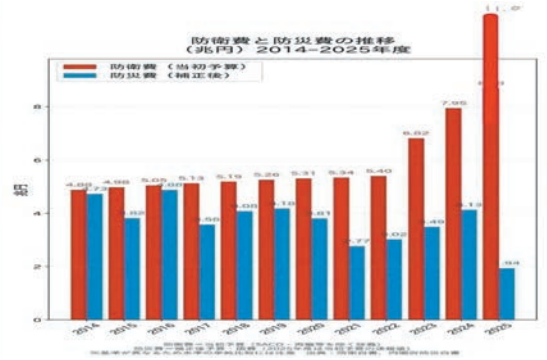


武 さとみ 議員

問 イタリアでは、災害時に要員が出動し一連の作業に被災自治体の職員は加わらない。約1万人が長期避難生活を過ごせる巨大な備蓄基地が国内３か所にあり、国を挙げて被災対策をしている。日本も避難所を改革するよう要望してほしいが町長の考えは。

答 国では、防災庁が設置される予定で進められており、今後、防災に関する関連業務等は一元化が図られていくものと思っている。町村会等を通じ、広域的な意味での対策について引き続き要望していきたい。

要請 国の防衛費と防災費の推移を見て、防衛予算より防災予算の増額を町からも国に要請するよう強く望む。



防衛費と防災費の推移（兆円）
2014 ～ 2025 年度

さつま町が誇れるまちへ

町長／挑戦を後押しする支援を



川口 憲男 議員

問 人口増対策は、特に若者の定住対策を喫緊の課題として、町を挙げて取り組む必要がある。他市町村にない、さつま町が誇れるまち、若者が夢を持って、住みたいまちの構想はどんなまちづくりか。また、進む方向性や町としての取組は。

答 未来に挑戦できるまちづくりには、初期投資への支援と成長への伴走支援の両面が必要である。商業では創業支援として店舗改修費等を、農業では新規就農者への支援を行っており、新規参入の敷居を下げ、新たな一歩の後押しになると考えている。若者が誇りを持っていただけるよう、一丸となって取り組む。





コメ価格下落の支援策は

町長／国へ備蓄米買戻を要請

竪山 秀樹 議員

問 コメ価格の下落を懸念する政府は、増産方針を転換し需要に応じた生産を掲げている。今年の普通期米の価格形成に指標となる県内産の早期米については、昨年の概算金より安く提示されている。収入減となる農家は経営圧迫が懸念されるが、その支援策について町長の見解を問う。

答 政府による備蓄米の買戻しの状況等、国の動向を注視しながら関係機関と連携し、備蓄米の買戻し等を要請していく。また、生産者の不安を解消する政策を考え、生産性の向上を図る。

要請 政府への備蓄米買戻しの要請について、JAと歩調を合わせて継続して実施するよう要請する。



観光、交流人口増に向けて

町長／らしさを生かした観光は



徳留 和樹 議員

問 PRやイベント等を強化することで交流人口増に繋がらないか。

答 関係機関団体や民間団体が主体のイベント等が開催され、交流人口増に寄与している。また、町では、民間団体が北薩広域公園で開催するイベントを、お知らせ版などで周知している。今後は、その他のイベントについても情報発信を検討する。

夏祭りは来年度から【新たなねぶた】の導入や、熱中症対策として開催時間を見直す予定である。薩摩中央高校や高校振興対策協議会と連携し、生徒の視点を生かした観光の魅力発信や新たな企画の検討を行う。



北薩広域公園でのイベントの様子



災害時避難所のトイレは

町長／平時の対策を計画的に

上別府 ユキ 議員

問 大規模災害では、避難所におけるトイレ不足や衛生環境、プライバシー確保が大きな課題となる。本町の指定避難所における想定避難者に対するトイレの必要数と現状の把握はできているか。

答 過去の災害から想定避難者数は650人と設定している。国際的な基準では、発災直後は満たしているが中長期は不足する場合が想定されるので準備を進めている。

問 断水等で既存トイレが使用できなくなった場合の備えは。

答 現在、携帯トイレ2,200回分、簡易トイレ40基を備蓄。大規模災害で長期化した場合、仮設トイレについては、関係機関・民間機関等と協定を結び確保体制を整えている。



熊本地震で協定により派遣されたトイレカー

常任委員会審査【補正予算】

会議録の詳細はこちらから

防災拠点事業費　1,007万円

【概要】

B&G財団による防災拠点整備事業。災害用ドローンの整備や、二渡分団車庫敷地に、救助艇及びボートトレーラーを格納するための艇庫を建設する。



救助艇を使用した救助訓練

【審査時の質疑】

問 救助訓練もしないといけないと思うが、その計画は。

答 訓練については、毎年１回 、免許保有者を集めて、川原町の河川敷で救助艇の操縦訓練を実施している。

また、今回の事業で一定以上の研修が必須となるので、それに向けて、研修の計画を立てていきたいと考えている。

防災拠点事業費　425万円

【概要】

地震、土砂災害等、非常災害に備えた設備の充実強化を図るため、土のう製造機、軽トラックダンプを整備する。



土のうの使用例

【審査時の質疑】

問 土のう製造機の性能は。

答 現在、人力による製造は、６人で１時間１００袋程度である。土のう製造機を利用すると、２人で1時間１５０袋程度の製造が可能になる。

問 土のう製造機を町民の方々に貸し出す考えはないか。

答 機械の貸出しはできないが、住民の方が２４時間自由に土のうを持ち出せる、土のうステーションのようなものの設置を検討したい。

常任委員会審査【決算審査】

会議録の詳細はこちらから

スクールソーシャルワーカー活用事業

【目的】問題を抱える児童生徒の家庭への働きかけを行うことで、生活環境を整え、子どもが健全に成長できるようにする。

【令和7年度の実績】

・教育支援センター「さつまる～ム」指導員、町教育相談員、学校との連携を図り「さつまる～ム」通級から学校に復帰できるように働きかけた。
・県のスクールソーシャルワーカー研修会へ参加。
・教育相談員、教育支援センター指導員との情報連絡会の開催。

【主な事業成果】

・学校復帰人数の増加
・スクールソーシャルワーカーの資質向上

【議員の声】

「さつまる～ム」の指導員や町教育相談員、スクールソーシャルワーカーが学校との連携を図り、多くの生徒が学校に復帰できたことは、現代の社会においては、すごいことだと思う。

【要請】

日頃から、情報交換や家庭への働きかけ、福祉関係部局等との連携を図りながら、取り組んできたこの結果を、よりアピールをしてほしい。

地域防災計画等の推進

【目的】住民のいのちや財産を災害から守るために対策の推進を図る

【令和7年度の実績】

・自主防災組織の結成、活動の促進
・防災士資格取得に対する補助
・避難所用の備蓄品の購入
・鹿児島県総合防災訓練の実施

【主な事業成果】

防災訓練実施率（公民会等）　55%



昨年５月に行われた県総合防災訓練

【審査時の質疑】

問 自主防災組織による防災訓練の実施率が低い。有事の際に、安全な避難体制が取れないのではないか。

答 避難所運営訓練の実施を計画している。そこでも、自主防災組織の大切さ、自助、共助の周知を図っていきたい。

【要請】

自主防災組織の活動にも重点を置き、力を入れてほしい。

また、防災訓練の在り方についても、伝達訓練だけでなく、複数の公民館で職員を配置して訓練を行い、地震・水害等の最大規模を想定して、準備を行ってほしい。

島根県美郷町議会　「新人議員」が紙面をつくる！！

　議会広報特別委員会で、令和８年７月14日に島根県美郷町議会を訪問し、視察研修を行いました。
　単に議会の報告だけでなく、「読まれる広報」「伝わる広報」を意識した紙面作りがなされており、特に住民視線を意識した編集方針や、分かりやすい文章表現、委員自らが主体的に編集に関わる体制が参考になりました。
　新人議員が広報委員の中心となって、新しい感性や斬新な考えを取り込んでおり、議会全体の懐の深さと、支え、見守る議長や先輩議員の覚悟を感じました。
　議会広報の在り方を見直す、非常に有意義な調査になりました。また、今後取り組むべき方向性を再確認する機会となりました。



良かとこばっかい、「まねっこ、まねっこ」で、いこかいな～！！



議会広報特別委員長
上別府　ユキ

広島県坂町議会　「心意気」が紙面をつくる！！

　議会広報特別委員会で、令和８年７月15日に広島県坂町議会を訪問し、視察研修を行いました。
　坂町の議会だよりは、余白や文字サイズの調整、写真や図解の効果的な配置、一般質問は核心を突く平易な要約により、視覚的・直感的に伝わる紙面を実現しています。
　広報紙作成にあたって、企画から取材、原稿作成、校正までの全ての役割を分担、交代しながら全員が全てを行える仕組みが構築されていました。
　更に、議員個人のための広報紙ではなく、「議会全体の広報紙」であるという意識が徹底されていました。
　受賞を目的にするものではない、議員自らが町民目線で議会活動を伝えていく姿勢と心意気が、強く響きました。



編集作業室がありました

コンサルなんか頼らじ議員が作るガチ広報がわっぜかった！



議会広報特別副委員長
桑波田　大

読む気がゼロだったあなたへ

～小言より短いよ。これをみて。～

議会モニターの意見も踏まえて、字数を減らすとともに、縦書きから横書きに変えてみました。レイアウトもシンプルでスタイリッシュな雰囲気に。
これまでにない!?新しい企画も検討中です。お楽しみに！！


一般質問

保育環境

保育料無償化の現状は

町長／4点を中心に施策実行

古田議員の一般質問はこちらから視聴できます

古田 昌也 議員

問 令和6年度から保育料完全無償化が始まり、子育て世代には大変喜ばれている。しかしながら、受け入れる側である一部の保育園、保育士の負担が増加し人材確保や保育の質の低下が起こるのではないかという声も聞こえる。この現状を把握し、対応策は考えているのか。

答 無償化に伴い、対応策として、次の4点を中心に取り組んでいる。一点目に人材確保と処遇改善、二点目に業務負担の軽減と生産性の向上、三点目に資質向上研修会などを開催しての質の向上、四点目に財政確保と制度的対応を保育現場の実情に合わせて取組を進めていく。

地域振興

雇用と共生の現状は

町長／地域環境の整備必要

問 外国人労働者の方は「未来の担い手」になりうる重要な存在であると認識しており、心して働き、生活できる環境を整えることは持続可能な地域社会の構築にもつながるものと考えている。また、相互理解の為、交流イベントとして、青年団による国際交流歓迎会や教育委員会主催のさつま体験ふるさと塾での交流イベントが実施されている。

町青年団による外国人との交流

地方創生

施策が与える影響は

町長／恒久的な財源確保を

問 最近、消費税などの議論において、地方の現状を把握していない報道が多くみられる。実際多くの市町村は、地方交付税がなければ予算が組めない状態である。国の施策が地方に与える影響は大きく、東京一極集中による弊害をどのようにこの現状をどのように考えているのか。

答 本町においても、最大の歳入は地方交付税であり、国における地方交付税の原資の内訳は、所得税は33・1％、法人税が33・1％、酒税が50％、消費税が22・3％である。また、地方消費税交付税についても都道府県が課税する地方消費税が市町村分として交付される。消費税のおよそ4割が地方の財源であり、高齢者医療や子育てといった施策を支える極めて重要な財源である。地方が必要な住民サービスを安定的に提供し、地方財政に支障をきたさないように求めていく。また、全国知事会でも地方に負担を転嫁するような制度改正を行わないように提言している。

町青年団による異文化交流

8 さつま町議会だより №83


さつま町が誇れるまちへ

町長　挑戦を後押しする支援を

川口 憲男 議員

問 人口増対策は、特に若者の定住対策を喫緊の課題として、町を挙げて取り組む必要がある。他市町村にない、さつま町が誇れるまち、若者が夢を持って、住みたいまちの構想はどんなまちづくりか。また、進む方向性や町としての取組は。

答 未来に挑戦できるまちづくりには、初期投資への支援と成長への伴走支援の両面が必要である。商業では創業支援として店舗改修費等を、農業では新規参入の[illegible]を行っており、新規参入の[illegible]なー歩の後押しになると考えている。若者が誇りを持っていただけるよう、一丸となって取り組む。

コメ価格下落の支援策は

町長　国へ備蓄米買戻を要請

竪山 秀樹 議員

問 コメ価格の下落を懸念する政府は、増産方針を転換し需要に応じた生産を掲げている。今年の普通期米の価格形成に指標となる県内産の早期米については、昨年の概算金より安く提示されている。収入減となる農家は経営圧迫が懸念されるが、その支援策について町長の見解を問う。

答 政府による備蓄米の買戻しの状況等、国の動向を注視しながら関係機関と連携し、備蓄米の買戻し等を要請していく。また、生産者の不安を解消する政策を考え、生産性の向上を図る。

要請 政府への備蓄米買戻しの要請について、JAと歩調を合わせて継続して実施するよう要請する。

8 №87 さつま町議会だより

Before

After



初代広報委員長のあたたかいまなざし

柏木 幸平 議員

（さつま町議会初代広報委員長）

現在の広報委員は、わたしたちの時代と違って研修を重ねて委員会の改革をしており、記事や写真、そして取材からレイアウトまで、職員でなく委員が主体となり「議会だより」を作成しています。

紙面の表紙はこどもの表情をとらえ、まず町民の皆さんに手に取っていただく、そして、見開きから最後まで見て読んでいただく工夫が感じられました。

議会活動

7月	
28～29日	防衛省要望活動
8月	
1日	さつま町夏祭り
4～6日	関西・中部地区企業本社訪問
6日	県町村議会議長会監事会・理事会
17日	屋久島町町議会　行政視察受入
18日	町交通安全町民運動推進協議会
20日	町秋季畜産品評会 町議会議員単独議員研修会 （白石県議との意見交換会）
22日	紫尾山同窓会総会
24日	北薩３市２町医療体制確保推進協議会 会計監査
26日	第22回町人権啓発フェスティバル
28日	町村議会広報研修会

9月	
1日	第3回定例会（9月議会） 及び各常任委員会等 （期間9月1日～9月25日）
16日	川薄秋季畜産共進会
26日	町ものづくり企業振興会 会員企業交流会
10月	
1日	岩手県北部地区町村議会議長会 行政視察受入
3日	第75回鹿児島県畜産共進会
13日	北薩横断道路整備促進議員期成会総会
17日	第9回関東さつま会総会
20日	町ものづくり企業振興会 県内企業視察研修
25日	第18回関西さつま会総会

ピックアップ



夏祭りへ　いざ出陣！！
（ギリギリまで手踊りの練習しました！）



北薩横断道路整備促進議員期成会　現地視察



あとがき

10 月4日に中津川区の金吾様踊りがおこなわれました。集落ごとに受け継がれてきた、それぞれの郷土芸能は素晴らしいものでした。

そのなかで、子どもたちが受け継ぐ「俵おどり」の、凛とした姿に伝統を未来へつなぐ力を感じました。　（委員　上別府 ユキ）

議会広報特別委員会

委 員 長　上別府ユキ
副委員長　桑波田　大
委　員　古田　昌也
委　員　武　さとみ

12月定例会予定

開会日　11月30日(月)

一般質問　12月2日(水)　3日(木)

二次元コードを読み取るとライブ中継画面のページが表示されます。

議会情報を掲載
さつま町ホームページ
https://www.satsuma-net.jp



ここをクリック

発　行／さつま町議会
発行責任者／さつま町議会議長　新改 秀作
〒895-1803　さつま町宮之城屋地1565番地2
TEL 0996-24-8911（直通）　FAX 0996-52-0704